

草加市倫理法人会 モーニングセミナー報告(6月)

(会場) 埼玉屋旅館

草加市高砂1-10-13 048-922-4141

6月2日(木)第952回

講師: 清水 良一 氏

埼玉県倫理法人会 事務局長

(株)サンシャイン企画 代表取締役

テーマ: 「時代の変化を「読む」



時は生きている。時代に合わせた物作り、常に社会の情勢・情報をキャッチする事を心掛けると良い。日本一のギフト会社を目指し総合ギフト製品卸業を開業。大手の品を中心に品揃えを展開してきたが、遠方の取引先はなかなか訪問できず、相手先とのやりとりは通信が主体になり、会社状況が分かりずらく、相手先が倒産し資金回収ができずに苦労した。2000年に倫理に出会い入会。鶴ヶ島市倫理法人会の起ち上げから今年で9年。倫理の役職をいろいろ受け、夫婦愛和で仲良く倫理を学び普及を実践し始めてから、貸し倒れが不思議となくなった。倫理を続けていると全国に倫友の輪が広がります。倫理の普及活動は先に目標があり、その目標に皆で向かって行きます。自分一人が遣っても変わらないと思うか、一人でも自分が遣っても変わらないと思うか、結果が大きく違ってくる。皆で協力し、倫友の輪を広げていきます。

小澤 章弘 記

6月16日(木)第954回

講師: 宇都 進 氏

(一社)倫理研究所 法人局 普及事業部

首都圏方面 担当研究員

テーマ: 「足下の実践」



新しく倫理法人会の歌が変わり、変わった内容について説明を頂きました。前作ではテーマにならなかった「家族」と「地球」を盛り込んだところが歌の特徴です。倫理を地で行くような家族で十人兄弟(男五人女五人)の長男。父は倫理研究所員で月二十五日は出張に行き家には殆どいない事が多かったが、家庭内には約束事が多くありました。しかし父は倫理の事はあまり言わず実践が大好きでしたので、背中を見て育って来ました。そんな父が口癖のように言っていた言葉が「順番順序」です。世の中、社会、自然界、全てに順番順序があり、その順番順序を守る事がとても大切な事だと教えられています。漢字に表しても同じ事が言えます。呼吸・親子・夫婦・上下。上だから、前だから偉いわけではないけれど全て立場・役割・順番順序が大切であります。全て大自然のリズムに併せて行くことが私たちがより豊かな実りのある生活を送る事になれるのだと思います。

小澤 章弘 記

6月23日(木)第955回

講師: 小原 健志 氏

東京都倫理法人会 普及拡大委員長

(株)コハラセミナーサービス 代表取締役

テーマ: 「素直なココロが人生を変える」



生保営業十七年目、毎週五件の契約を七年間続けてギネス記録に登録された。人が助けてほしい時に助ける。人に喜ばれる時に動く。見えない部分は先に出来ている。順番があり土台が大切。見える部分で損か得かで生きてきた。倫理指導を受け実践。父に報告すると喜んでくれた。保険はお見合いです。見えないところで繋がっている。見えない応援団がいる。朝目が覚める。見えない応援団が目覚めさせてくれる。毎朝一人朝礼を鏡に向かってしている。この日も五分少々で全て実践して見せてくれた。言っている通り、思っている通りになる。表情、肉体は心の表れ、パーツは変わらないが心はずぐ変わる。仕事に大切な事は知識、技術、人脈、経験と「強い思い」です。今の出会いは二度とない。強い思いを更に強く思い見えない応援団、協力者を多くする事です。

丸山 千代子 記

6月30日(木)第956回

講師: 友田 雅明 氏

西人間倫理法人会 会長

(有)雅 ブーケ・ド・ピアノカ 代表取締役

テーマ: 「倫理とJCは一對の反射鏡」



JC(日本青年会議所)は「明るい豊かな社会の創造」が大儀です。倫理法人会は「日本創生」が大儀です。今から七十一年前に、丸山敏雄先生が倫理研究所を起ち上げました。JCは昭和四十九年九月三日、倫理研究所は昭和二十年九月三日と偶然の一致なのかわからないが、JCと倫理は凄く結びつきがあるなあと感じています。JCと倫理法人会の大きな違いは、JCは青年が作る青年経済団体ですが倫理法人会は民間の社会教育団体で教育におもきを置いている点です。私は倫理法人会での学びをもっと広げ、自己研鑽をして、今の我々大人世代が子供たちに夢を持たせられる環境を作りだしていく事が重要であると、使命感を持って実践しています。JCで活動している若い経営者の皆さん、倫理法人会は実践でしか得られない多くの学びがあります。自身自身が成長しなければ、他者を巻き込む事は出来ませんから、少し倫理を取り入れてみて下さい。

小澤 章弘 記

6月9日(木)第953回

講師: 川辺 裕子 氏

埼玉県倫理法人会 北部地区 長

ABCキャリアステーション(株) 取締役

テーマ: 「経営者の妻としての実践」



大歓迎の拍手の中マイクを持つ爽やかな川辺さん。衣料関係の自営の夫と結婚。スーパーの軒先で衣料品小物の販売も経験。店舗のありがたさを実感する。娘が生まれるが仕事に精進。固定客も増え店舗も増えたが仕入れのお金に苦労する。仕入れのない仕事として夜、学習塾を始める。長男が生まれるが小児ぜんそくを患う。看病で店に出られず退職。夫も衣料の仕事をやめ二人で塾経営を本業にする。少子化の波にさらされた時に倫理と出会い、モーニングセミナーに出席。社長の立場と経営を学び、兄弟同士の仲も良くなり、主人の気持ちも理解できるようになった。子供達にも寂しい思いをさせた。「後悔があったら心をリセットさせれば良い。心の世界は戻れる!」と教わり実践。娘との関係も修復。「夫とは針と糸の関係ですよ。夫の針の後を糸の如く追っていきなさい!」と教えを受け心掛けています。「途中、ハサミでチョッキン!と切る事も出来るかも!」(笑。)

丸山 千代子 記